

「機械と人間の情報科学」

主催 名古屋大学大学院 情報科学研究科

共催 名古屋大学情報文化学部, 名古屋大学工学部電気電子・情報工学科



IB電子情報館東棟大講義室



IB電子情報館中棟屋上



IB電子情報館中棟ピロティ

日時 2004年8月28日(土)

受付 : 12:30から

ポスター展示 : 12:30 - 16:00

講演 : 13:00 - 16:00 (休憩 14:00 - 15:00)

場所 受付・ポスター展示 : 名古屋大学 IB電子情報館中棟ピロティ
講演 : 名古屋大学 IB電子情報館東棟大講義室

内容 情報科学研究科研究紹介ポスターの展示(内容は裏面を参照)
および以下の講演を行います。奮ってご参加ください。

13:00-14:00 「自動車の中で活躍する情報科学」
情報システム学専攻 高田広章 教授

15:00-16:00 「ココロとカラダをむすぶ情報科学」
メディア科学専攻 齋藤洋典 教授



地下鉄名古屋大学駅3番出口付近

参加費無料

高校生・大学生の参加を歓迎します。

参加申し込みは氏名と学校名をメールでお願いします。

seminar@is.nagoya-u.ac.jp

申し込み締め切り

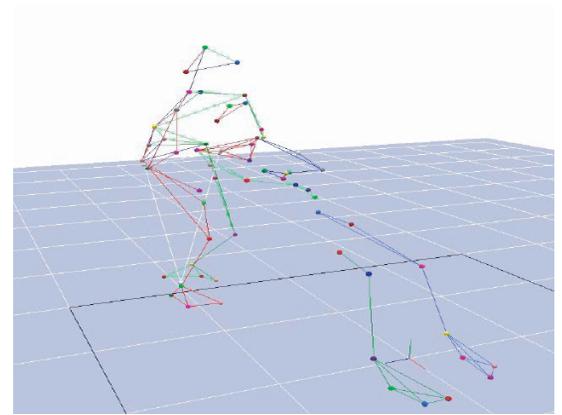
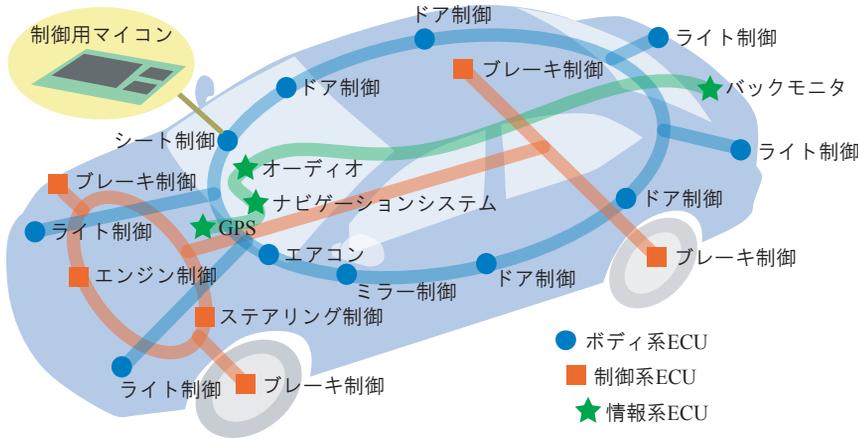
2004年8月20日(延長されました)



INFORMATION
SCIENCE
NAGOYA UNIVERSITY

自動車の中のコンピュータ

看護モーションキャプチャ



ポスター展示の内容 (予定)

- ・ Webアプリケーション開発技術
- ・ 音響信号処理
- ・ 3次元医用画像認識・理解・生成
- ・ 高度道路交通システム(ITS)
- ・ 自由視点テレビ
- ・ 個人用知的移動体
- ・ 動画像認識・検索
- ・ コミュニケーション支援
- ・ 高信頼性ソフトウェア
- ・ 音声言語処理
- ・ VLSIアルゴリズム
- ・ ユビキタス情報環境
- ・ マルチメディアコミュニケーション
- ・ XMLデータベース
- ・ 法律情報共有基盤
- ・ コーパスに基づく自然言語処理
- ・ 仮想心理実験室
- ・ 無線通信システム
- ・ バイオインフォマティクス
- ・ 知能ロボット
- ・ マルチエージェントシステム

講演者情報



高田 広章 (たかだ ひろあき)

情報科学研究科 情報システム学専攻 集積システム論講座 教授

<http://www.ertl.jp/>

<略歴>

- 1988年・ 東京大学大学院 理学系研究科 情報科学専攻 修士課程修了
- 1989年・ 東京大学 理学部 情報科学科 教務職員
- 1993年・ 同 助手
- 1997年・ 豊橋技術科学大学 工学部 情報工学系 講師
- 2001年・ 同 助教授
- 2003年・ 名古屋大学大学院 情報科学研究科 情報システム学専攻 教授、現在に至る

<主な論文・著書>

- [1] 高田広章 (2001) 組み込みシステム開発技術の現状と展望, 情報処理学会論文誌, vol.42, no.4, pp.930-938.
- [2] H. Takada and K. Sakamura (1997) A Novel Approach to Multiprogrammed Multiprocessor Synchronization for Real-Time Kernels, Proc. of 18th IEEE Real-Time Systems Symposium.
- [3] 高田広章 (編) (1999) μ ITRON4.0仕様, トロン協会.



齋藤 洋典 (さいとう ひろふみ)

情報科学研究科 メディア科学専攻 認知情報論講座 教授

<http://www.cog.human.nagoya-u.ac.jp/~saito/>

<略歴>

- 1981年・ 関西学院大学大学院 文学研究科 心理学専攻 博士課程後期課程単位取得退学
- 1985年・ 名古屋大学教養部 講師
- 1988年・ 同 助教授
- 1993年・ 名古屋大学大学院 人間情報学研究科 助教授 (認知情報論講座)
- 1996年・ 同 教授 (認知情報論講座)
- 2003年・ 同大学大学院 情報科学研究科 メディア科学専攻 教授 (認知情報論講座), 現在に至る

この間1996年マックスプランク研究所 (心理言語学部門) 客員研究員, 2000-2001 米国コロラド大学 ボールダー校 (認知科学研究所) 客員研究員

<主な論文・著書>

- [1] 齋藤洋典・白石知子 (2004) 介護の仕方をどう学ぶか, 野島久雄・原田悦子 (編著) 家の中の認知科学, 新曜社.
- [2] 齋藤洋典・喜多壮太郎 (編著) (2002) ジェスチャー・行為・意味 共立出版.
- [3] H. Saito, O. Yamazaki, and H. Masuda (2002) The effect of number of kanji radical companions in character activation with a multi-radical-displaytask, Brain and Language, vol.81, pp.501-508.



ACCESS

地下鉄名城線名古屋大学駅3番出口すぐ

住所

名古屋市千種区不老町

問い合わせ先

名古屋大学 情報科学研究科 長尾研究室

Tel/Fax 052-789-5878

URL <http://www.is.nagoya-u.ac.jp/seminar/>

